

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

日教組独自ボランティア（岩手）活動報告

「日教組独自ボランティア第1ターム」の一員として7/20～22岩手県大船渡で活動した。今回の活動の成否が今後の日教組ボランティアの存続を左右する、そんな思いを抱いての参加であった。組合が声をかけても現場からなかなか要請がこない、という話を聞いていたので、なおさらそんな気持ちになっていたのかもしれない。「迷惑をかけないこと、押しつけにならずに、やってほしい（だろう）ことをひっそりとやること」私が心がけたことである。

第1ターム16人が2～4人の5班に分かれ、宿舍となった民宿を出発する。津波被害をのがれた特別教室に入り図書や楽器、食器等を仕分け引っ越しの準備をする、送られてきた物資や義援金の仕分けや台帳作成、生徒作文のパソコン入力、自習監督や下校指導、プール清掃や除草。各校の状況や要望に応じるため作業内容は多岐にわたった。

私たちが配属された猪川小学校は、高台にあるため津波を受けず、しばらくの間避難所となった学校であった。「早く日常生活を取り戻したい」という先生方の願いもあって私たちが訪れた時には、学校中に元気な子どもたちの声が響いていた。

「手伝いますよ」という岩手県教組の声に真っ先に手をあげてくださった高橋厚子先生からお聞きして、健康診断簿のはんこ押し、歯科検診簿の清書と消しゴムかけ、診断結果を封筒に入れる、保険掛金返金分を封筒に入れる、各家庭から持ち寄ったぞうきんを10枚ずつ40束にする、などの作業にとりくんだ。一方、作業場所が保健室であったこともあり、突発的なことも生じる。具合が悪く水泳学習を休んだ子どもの自習課題の丸つけをしたり、放課後、外出しなければならぬ学担にかわって特別支援学級の子をおばあちゃんに引き渡すまでの時間を一緒に過ごしたりした。さらに、夏休み前の保護者面談があるとお聞きし、花壇の草取りをした。



他者を受け入れるための雑多な手はずやその後の処理、自分のことは自分でやらなければ、という責任感。忙しいのは自分だけじゃない、他の人に迷惑をかけたくない、という思い。新しいことを始めることへの抵抗感…それら全ての気持ちが、分からぬではない。しかし、私自身はこの春まで小学校現場にいて「あ～、秘書がほしい」「誰か手伝って～」と言わずにはいられなかった。学校というのは大人の手がたくさんあればあるだけありがたい場所である。「気にはなっているけど手が回らない」そんな仕事がたくさんあるのだ。ましてや、あれほどの非日常を経験した場であればなおのこと…。

「明日は年次もらって娘を医者に連れて行けます（結局は、おじいさんが連れて行ってくれ出勤されていましたが）」「午後7時からの地域行事に娘たちを連れて行くことができました。"お母さん遅く帰ってくるから、どうせ行けないんでしょ"と言っていた娘たちもびっくり」「仕事の見通しができたので、夏休みの動静表に“休暇”を入れられます」「短期ではあるけれど不登校傾向の子どもたちが増えてきている。メ切のある仕事があると、イライラして、そのような子どもたちへの対応がおざなりになってしまう。おかげでゆっくりと対応できます」「保健室にいてもらえるので職員室で先生方から頼まれた印刷ができた。目をつりあげて走り回る先生がいないだけでも先生方にはありがたいんじゃないかしら」「"何でもやりまますよ"と声をかけてもらってありがたかったと先生方もおっしゃっていましたよ」高橋先生の言葉が、ありがたく身にしみる。

できればたくさんの先生方に休んでほしい、ゆっくりしてほしい、そのための後方支援をさせていただきたい。日教組独自ボランティアならではの活動ができたことに感謝するとともに、今後もそんな活動が求められ実践できることを心から願っている。

